

<p><建学の精神> 親鸞聖人が明らかにされた「阿弥陀如来のみ教え」(浄土真宗の精神)を建学の精神とする。 「崇徳興仁・務修礼讓」(徳を崇め仁を興こし、つとめて礼讓を修す)(『仏説無量寿経』) 「善い行いを尊び(崇徳)、思いやりの心をおこし(興仁)つとめて礼儀を守り互いに譲り合う(務修礼讓)」という願い。</p>	
<p><学校教育目標> 「SOTOKU PRIDEを持って未来を生き抜くことができる生徒を育成する」 『SOTOKU PRIDE』 ①自分の考えで、②何事にも主体的に ③・④実行し、⑤他者をリスペクトできる、しなやかな心 『未来を生き抜く』 ⑥他者と協力し、⑦現在を知り、⑧未来を考える手法を学ぶ。(高校) ⑥過去に学び、⑦現在を知り、⑧未来を考える手法を学ぶ(中学)</p>	<p><校訓四綱領>~崇徳生が守るべき4つの教訓~ 「健康」~心身ともに健康で自立心のある人間の養成 「誠実」~まごころで生き、働く人間の養成 「精進」~精一杯努力する人間の養成 「感謝」~生かされている尊いいのちに目覚めた人間の養成</p>

<p><グラデュエーション・ポリシー 崇徳GP> ①自分を大切に、他人を思いやる豊かな人間性を土台として、高い志と自主自律性を育みます。 ②持続可能な未来を創造する8つの力(①思考力・②自己肯定力・③発信力・④行動力・⑤コミュニケーション力、思いやる力・⑥協働力、傾聴力・⑦分析力・⑧創造力)を育みます。 ③8つの未来創造力を実践し、社会貢献・国際貢献できる人間力を育みます。 <目指す学校像> ①生徒一人ひとりの夢を叶える学校。生徒のやりたいことを支援できる学校。 ②学習を中心に頑張りたい生徒は勉強に励み、部活動を中心に頑張りたい生徒は部活動で力を発揮することで、それぞれの進路希望を実現できる学校。 ③保護者・地域に信頼され、共に歩む開かれた学校。 ④教職員が協働し、専門性を高め合い、学び続ける組織 <学校経営の基本姿勢> ①共創(Co-creation):保護者・地域・関係機関との連携強化 ②対話(Dialogue):校長のリーダーシップのもと教職員間、生徒との対話を重視した組織運営 ③振り返りと改善:年度内の継続的な点検・評価と改善の実施</p>	<p><カリキュラムポリシー CP> ①【確かな学力の育成】 ~自ら学び、思考し、他者と協働して課題を解決できる生徒の育成~ ・個別最適な学びと協働的な学びの両立(ICT活用・探究学習の推進) ・指導と評価の一体化による授業改善(ルーブリック導入・振り返り活動の充実) ・基礎・基本の徹底と学習習慣の定着 ②【豊かな人間性の育成】 ~多様性を尊重し、思いやりと責任感をもって行動できる生徒の育成~ ・「SOTOKU PRIDE」に基づいた宗教教育・人権教育の充実 ・学校行事や課外活動でも、誇りと自信を持ち、仲間と協力しながら挑戦する姿勢を育成 ・地域や異文化との交流の機会の創出 (国際理解教育、海外修学旅行、ボランティア活動) ③【たくましい心身の育成】 ~困難を乗り越える強い心と健やかな身体をもつ生徒の育成~ ・体力向上を目指した体育・健康教育の充実(体育授業・運動習慣の定着) ・心の健康を支える体制整備(スクールカウンセラー・ピアサポート活動) ・挑戦を支える教育(失敗を恐れないチャレンジ精神の育成)</p>
---	---

領域	中期経営目標	短期経営目標	主な推進担当	具体的方策	年度末評価	評価指標・評価規準		年度末評価	評価指標・評価規準	
						努力指標	成果指標		努力指標	成果指標
学力の向上	生徒の進路希望の実現に向け、自らの課題に応じた、より深い学びを持続する力を身につけさせる。	進路指導において、高い志を育むための学年ごとの目指すべきビジョンを設定する。 進路・勉強へのモチベーションを高める行事を充実させる。	進路指導部・特進構想委員会	中学においては、「フォーサイト(学習手帳)」を活用することにより、低学年では生徒の学習習慣を定着させ、学年が上がるにつれて、生徒自らが学習や日常生活の管理ができるように継続して指導し、中学から高校に繋がる目標を設定させるとともに、高い志望にチャレンジする生徒を育成する。 高校においては学年進路担当者が中心となり、学年の状況に合わせた進路行事を積極的に企画し、他分掌や外部機関と連携しながら実施し、志望校への出願ができるようにしていく。	4	生徒に学習習慣を定着させ、学習や日常生活の管理が十分できる生徒を育てることができた。	4	生徒アンケートによる肯定率が80%以上であった。		
		3		生徒に学習習慣を定着させ、学習や日常生活の管理がある程度できる生徒を育てることができた。	3	生徒アンケートによる肯定率が70%以上であった。				
		2		生徒に学習習慣を定着させたが、学習や日常生活の管理ができるまではいかなかった。	2	生徒アンケートによる肯定率が60%以上であった。				
		1		生徒に学習習慣を定着させることができず、学習や日常生活の管理も十分でなかった。	1	生徒アンケートによる肯定率が50%以下であった。				
		4		進路行事を予定通り実施でき、他分掌や外部機関との連携も十分とることができた。	4	高3の6月時点での第1志望校への出願率が80%以上であった。				
		3		進路行事を予定通り実施でき、他分掌や外部機関との連携をとることができた。	3	高3の6月時点での第1志望校への出願率が65%以上であった。				
		2	進路行事を予定通り実施できたが、他分掌や外部機関との連携が十分にとることができなかった。	2	高3の6月時点での第1志望校への出願率が50%以上であった。					
		1	進路行事を予定通り実施できず、他分掌や外部機関との連携も十分にとることができなかった。	1	高3の6月時点での第1志望校への出願率が50%以下であった。					
		4	次期学習指導要領の情報を網羅的に収集した上で、十分な協議・検討を重ねることができた。	4	最新動向を反映した受験対策と学びの質を両立させる教育課程実施の見通しが立った。					
		3	次期学習指導要領の情報は丁寧に整理し、協議や検討をおこなうことができた。	3	最新動向を概ね反映した受験対策と学びの質を両立させる教育課程実施のおおよその見通しが立った。					
		2	次期学習指導要領の情報収集はある程度おこなえたものの、協議や検討が十分ではなかった。	2	最新動向を踏まえ受験対策と学びの質を両立させる教育課程を編成するも、細部の協議や検討が不十分であった。					
		1	次期学習指導要領の情報収集が不十分で、協議や検討をおこなうに至らなかった。	1	受験対策と学びの質を両立させる教育課程の編成を目指したが、協議や検討が十分でなく、完成には至らなかった。					
4	導入に向けた協議・検討を十分におこない、授業評価アンケートが完成した。	4	成績検証を学期・年度ごとに計画的に実施し、可視化・共有・分析を徹底して改善内容を確実に反映させることができた。							
3	導入に向けた協議・検討を5回以上おこない、授業評価アンケートが80%完成した。	3	成績検証を定期に実施し、可視化・共有は概ね達成し分析の要点を授業設計や評価に反映させることができた。							
2	導入に向けた協議・検討を2回以上おこない、授業評価アンケートが40%完成した。	2	成績検証を実施し、可視化・共有はおこなえたものの、分析が表層的で反映にばらつきがあり、効果が限定的であった。							
1	導入に向けた協議・検討を行ったが、授業評価アンケートの作成に至らなかった。	1	成績検証は実施するも、共有・分析が不足し、改善反映は散発的で、効果が十分ではなかった。							
4	生徒が外部団体のコンテスト等に参加について、適切な外部機関と継続的な連携体制を築くことができた。	4	生徒が自ら外部機関に連絡・相談し、活動を主体的に展開した。他生徒へも波及効果が見られた。(例:後輩への助言、学校外での活動参加)							
3	外部団体(大学等)の出張講義などを実施し、外部団体との連携ができています。	3	生徒が自ら課題を発見・設定し、外部連携を活かした探究活動の成果を校内外で発表・共有できた。							
2	生徒たちが探究的な学びのプロセスを実感できるよう、校内での発表会などの行事の実施ができています。	2	生徒がテーマ設定や調査活動に自ら関与するようになり、主体性が一部に見られた。							
1	探究的な学びのプロセスを繰り返し体験できる年間指導計画を作成できている。	1	教員の主導により探究活動を進めており、生徒は受け身であることが多かった。							

領域	中期経営目標	短期経営目標	主な推進担当	具体的方策	年度末評価	評価指標・評価規準		年度末評価	評価指標・評価規準			
						努力指標	成果指標		評価指標・評価規準	評価指標・評価規準		
豊かな人間性の育成	高い規範意識と自己管理能力を身につけるとともに、他者への思いやりや気配り、環境美化の心を大切にする生徒を育て、豊かな人間性を育む。	建学の精神を大切に、仏参や仏教行事などを通して、仏教のみ教を学び、自身を内省しつつ、他者の気持ちを分かち合える生徒を育成する。 関連GP: 協働力(傾聴力)、コミュニケーション力(思いやる力)	宗教教育部	年間を通じて、各種行事やLHRを展開し、本校が仏教(浄土真宗)を基盤とする学校であること、および仏教のみ教を生徒・教職員に知ってもらう取り組みを行い、自他のいのち・平和の大切さについて考える機会を多く設定する。	○	4	各種行事やLHRを展開し、本校が仏教(浄土真宗)を基盤とする学校であること、および仏教のみ教を生徒・教職員に知ってもらう取り組みを行い、自他のいのち・平和の大切さについて考える機会を多く設定できた。	○	4	教職員ならびに生徒アンケートでともに肯定率が80%以上。		
		生徒による生徒会活動や学校行事の企画・立案・実践により、リーダーシップを備えた生徒を育成する。 関連GP: 自己肯定力・協働力(傾聴力)・コミュニケーション力(思いやる力)・行動力・発信力	生活指導部(生徒会係)	・クラスマッチや崇徳祭、生徒会活動の活性化により、企画・運営の機会を増やす。(行動力・発信力・協働力) ・地域のイベントやボランティア活動に参加することで、地域に貢献する。(コミュニケーション力・発信力) ・学校の広報・宣伝活動を行う。(協働力・行動力・発信力)	○	4	年間3件以上行事を企画・運営し、主体的に行動し、十分な成果を上げ、崇徳GPを身につけることができた。	○	4	生徒の振り返りアンケートで、自分が成長したGPIについて、80%以上が肯定的な意見である。		
		生徒が社会のルールを守り、お互いをかけがえない存在として認め合い、よりよい社会を実現するために貢献できる人間となるよう指導する。規範意識を育むために、ルールを自ら守ろうとする意欲を育てていく。 関連GP: 自己肯定力	生活指導部(生活指導係)	・始業前の徒歩・自転車通学生や遅刻者等の指導を継続的にを行い、担任と保護者と連携した取組を行う。それにより、ルールや時間を守り、よりよい生活習慣の定着を図る。 ・生徒が集合する場面や指導部便り・クラスへの掲示物等を使い、生徒の現状や課題を発信することで、自ら考え行動ができる生徒を育てる。	○	4	生活指導部・担任・家庭との連携が密にとれ、生徒の課題克服に十分な効果があった。	○	4	遅刻者数・生活指導事案件数が、前年度より10%以上減少した。		
		校内教育相談体制の充実に取り組み、各部署における連携を密に取り、欠席がちな生徒に対する早期の予防的対策を図る。 関連GP: 自己肯定力・コミュニケーション力(思いやる力)	保健室・教育心理学・教育相談各係(学年)	生徒情報を遅刻・欠席状況やいじめ調査・ストレスチェックの報告等を通して把握し、教育相談会議・授業担当者会議等で共有する。そして、生徒情報共有会議の開催によって、学校生活での配慮や生徒指導の判断に活かすよう努める。	○	4	各定例会議および生徒情報共有会議を開催して、配慮の必要な生徒等の把握に努めた。そして、教職員が生徒に開く対応について教育相談室・スクールカウンセラー・保健室に相談した際に、関係各所と連携して速やかに対応した。また生徒がいじめ等の相談について教育相談室・スクールカウンセラー・保健室に相談した際に、関係各所と連携して速やかに対応した。	○	4	対象の教職員ならびに生徒アンケートでともに肯定率が80%以上。		
		地域との連携を図りながら、環境美化を推進し、地域からも信頼される生徒の育成を目指す。 関連GP: 自己肯定力・コミュニケーション力(思いやる力)	総務部	日々の美化活動を実践するとともに、来校者をお迎えする学校行事前には、生徒会美化委員・環境委員と協力し、生徒・教職員が一体となり、主体的に取り組むことで、校内外の環境美化に貢献し、環境美化に対する意識を高める。	○	4	生徒・教職員が一体となり、開かれた学園としての美化活動に新たな取り組みができた。	○	4	環境美化に対する生徒アンケートの肯定率が90%以上であった。		
		計画的なグローバル教育を展開し、豊かな国際感覚と英語コミュニケーション能力を育む。 関連GP: コミュニケーション力(思いやる力)・行動力・発信力	国際交流検討委員会	海外修学旅行や海外研修旅行の計画を行う。また、オンラインを通じた国際交流の実践を行う。	○	4	海外修学旅行や海外研修旅行の計画を立て、実行に移すことができた。	○	4	海外修学旅行や海外研修旅行の希望者が100名を超えた。		
		学校経営	志の高い生徒を募集することで、学校経営を安定化を図る。	生徒のアイデアや意見も取り入れながら、学校行事や日々の活動の発信力を高める。 関連GP: 創造力・コミュニケーション力(思いやる力)・行動力・発信力	企画広報部・入試室	オープンスクールやオープンハイにおいての参加者を増やす取り組みを進めるとともに、外部主催の説明会にも積極的に参加し、広報活動の充実に取り組む。	○	4	外部に向けた取り組みを年間15件以上実施することができた。	○	4	外部アンケートで80%以上の人から肯定的な評価(10段階で9以上)を得た。
				経費の削減についての方法を研究し、現状に沿った経費節減を実現していく。(4年計画の1年次)	法人事務局	・すべての分野で競争入札の導入し、経費削減を実現していく。 ・大芝グラウンド、入野グラウンドの活用策を検討する。	○	4	すべての分野で競争入札を行うことができた。	○	4	すべての分野で経費節減を図ることができた。
				人事管理システムの導入について研究する。(4年計画の1年次)	管理職・法人事務局	公立学校の制度を参考にし、業績評価システムの導入について試行する。	○	4	業績評価制度の導入に向けての話し合いを5回以上することができた。	○	4	分掌・学年・各教職員ごとに学校評価(業績評価制度)を導入することができた。
				外部に向けた取り組みを年間10件以上実施することができた。			3	外部アンケートで70%以上の人から肯定的な評価(10段階で9以上)を得た。				
				外部に向けた取り組みを年間7件以上実施することができた。			2	外部アンケートで50%以上の人から肯定的な評価(10段階で9以上)を得た。				
				外部に向けた取り組みが年間7件未満であった。			1	外部アンケートで50%以上の人から否定的な評価(10段階で6以下)を得た。もしくはアンケートが実施できなかった。				
80%の分野で競争入札を行うことができた。					3	80%の分野で経費節減を図ることができた。						
50%の分野で競争入札を行うことができた。					2	50%の分野で経費節減を図ることができた。						
競争入札を行うことができた分野が50%未満であった。					1	経費節減を図ることができた分野が50%未満であった。						
業績評価制度の導入に向けての話し合いを3回以上することができた。					3	分掌・学年において学校評価(業績評価制度)を導入することができた。						
業績評価制度の導入に向けての話し合いを3回未満しかすることができなかった。					2	学校評価(業績評価制度)を導入に向けての話し合いをすることができた。						
業績評価制度の導入に向けての話し合いをすることができなかった。					1	学校評価(業績評価制度)を導入に向けての進展がなかった。						

領域	中期経営目標	短期経営目標	主な推進担当	具体的方策	年度末評価	評価指標・評価規準		年度末評価	評価指標・評価規準			
						努力指標	成果指標					
業務改善と時間の確保	生徒と向き合う時間を確保することを主たる目的とし、校務全般に係る教職員の業務の見直しを行い、持続可能な体制づくりを推進する。	業務の効率化・働き方改革を意識し、生徒と向き合う時間の確保に努める。	会議・各職分・学年会・中学校委員会	・現行の業務内容について点検・見直しを行い、業務改善を推進する。 ・校務支援システムの導入により校務の効率化を図るとともに、導入による課題や問題点に速やかに対応・解消していく。 ・管理職が教職員の毎月の残業時間を把握し、月の中間で残業時間が35時間前後の教職員への声かけを行う。	4	4	4項目以上について効率化を図ることができた。	4	4	教職員アンケートの子どもと向き合う時間の確保・校務負担感の軽減の肯定率が80%以上であった。		
					3	3	3項目について効率化を図ることができた。	3	3	教職員アンケートの子どもと向き合う時間の確保・校務負担感の軽減の肯定率が70%以上であった。		
					2	2	2項目について効率化を図ることができた。	2	2	教職員アンケートの子どもと向き合う時間の確保・校務負担感の軽減の肯定率が60%以上であった。		
					○	1	効率化された業務が2項目未満であった。	○	1	教職員アンケートの子どもと向き合う時間の確保・校務負担感の軽減の肯定率が60%未満であった。		
将来構想	新学習指導要領を意識し、さらなる学園の発展と魅力を高める施策を確立する。	学習と両立を図りながら、豊かな人間性の育成や競技力の向上を目指すことが可能な部活動を構築する。 関連GP: 自己肯定力・行動力・協働力	クラブ検討委員会	・カリキュラム変更に合わせて、下校時間の見直しと、クラブのカテゴリー分けの検討を行い、学習と部活動の両立を図るための取り組みを行う。 ・部活動希望の女子生徒に対して、女子部の在り方について検討する。	4	4	教員アンケートでの肯定的評価の割合が90%以上	4	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上		
					3	3	教員アンケートでの肯定的評価の割合が75%以上	○	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上		
					2	2	教員アンケートでの肯定的評価の割合が50%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
					○	1	教員アンケートでの肯定的評価の割合が50%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		
		令和9年度入学生からの新コース設置に向けて、教育内容を吟味し、ICTの活用を含めた授業方法の再構築に取り組む。	部・管理職・特進・構想・研究部・カリキュラム検討委員会	単位数変更に伴い、教育研究部、教務部、カリキュラム検討委員会等と連携しながら、各コースにおける目標や特徴に即した授業内容や授業展開の再設計を行うとともに、外部連携も視野に入れた独立型探究活動の導入について協議・研究を進める。	4	4	各教科や担当する分掌・委員会で協議や研究を10回以上実施することができた。	4	4			
					3	3	各教科や担当する分掌・委員会で協議や研究を7回以上実施することができた。	3	3			
					2	2	各教科や担当する分掌・委員会で協議や研究を5回以上実施することができた。	2	2			
					1	1	各教科や担当する分掌・委員会で協議や研究が5回未満しか実施することができなかった。	1	1			
中学1年	基礎的な知識・技能の習得をすることともに、学ぶ目的を知り、主体的に学ぶための興味・関心を身につけさせる。	基礎的な知識・技能を習得するために授業で毎回目標設定をする。学びを主体的に取り組むような生徒を育てる。	中学1年	【自然体験・農業体験プロジェクト】 自然体験・農業体験を通して、仲間とのコミュニケーションや自分自身との対話、実社会とのかわりなどを考える機会とする。協働する大切さを学ぶとともに、「発信力」「思考力」「思いやる力」「行動力」を身につけてさせる。	4	4	教員アンケートで肯定的評価の割合が90%以上	○	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上		
					3	3	教員アンケートで肯定的評価の割合が75%以上	3	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上		
					2	2	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
					1	1	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		
中学2年	基礎的な知識・技能の習得をすることともに、学ぶ目的を知り、主体的に学ぶための興味・関心を身につけさせる。	様々な分野において興味を持ち、自ら課題を設定して情報を収集することができる生徒を育てる。	中学2年	【京都研修】 京都についての調べ学習、班での旅程決め・プレゼンテーション作成を通して研修当日までに「思いやる力」「傾聴力」「行動力」を育てていく。班内での意見交換や決定を通して「自己肯定力」が育つような交流にしていく。研修当日には、自分たちのプレゼンテーションの内容が機能するかどうか、また現地に行き初めてわかることを、今まで培ってきた「思考力」「分析力」「創造力」を駆使して班員でプレゼンテーションを協働作成し、大学生に向けて発表することで「発信力」がどこまで育ったかを確認する。	4	4	教員アンケートで肯定的評価の割合が90%以上	○	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上		
					3	3	教員アンケートで肯定的評価の割合が75%以上	○	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上		
					2	2	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
					1	1	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		
中学3年	企画・計画・実践等で他者から認められることを通じて自己肯定感を高め、よりTPOに応じた行動ができよう育てる。	学校行事でリーダーシップを発揮したと実感させる。	中学3年	【台湾研修】 海外研修を通して異文化を理解し、体験することで国際感覚を養う。また班別行動を通して社会性、公共性、責任感を自覚するとともに崇徳中学校の一員としての団結を深める。台湾の人々に広島の魅力発信するプレゼンテーションを行い、他者を意識した「発信力」と自ら学ぶ「行動力」を培う。 【模擬国連】 英語や英会話の授業で培った英語力を活用しながら、当事者意識をもって世界の諸課題について深く調べ、さまざまな解決策を多角的に考察する。他の国と協力しながらよりよい社会にするための具体的な提案を行う。これらの学びの中で、「思考力」「分析力」「傾聴力」を磨いていく。	4	4	教員アンケートで肯定的評価の割合が90%以上	○	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上		
					3	3	教員アンケートで肯定的評価の割合が75%以上	3	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上		
					2	2	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
					1	1	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		
中学校全体			定期考査	2週間前から目標点を設定し、フォーサイト手帳に学習予定を立てるよう指導する。前回の考査の振り返りも踏まえて自分に必要な勉強の量や質を考えさせる。定期考査終了後には、振り返りシートに素点と平均点、テスト週間の過ごし方で良かった点・改善点を記入して「分析力」を磨く。また、自分で立てた計画を達成することで「自己肯定力」も育てていく。 1週間前にはメディアコントロール週間を設け、スマホやiPad、テレビなどの電子機器の使用を自分で制限し、生活習慣を意識して行動させる。毎日シートに記録して達成度を確認することで、「自己肯定力」「行動力」を育てていく。	4	4	教員アンケートで全学年で肯定的評価の割合が80%以上	○	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上		
					3	3	教員アンケートで2つの学年で肯定的評価の割合が80%以上	○	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上		
					2	2	教員アンケートで1つの学年のみが肯定的評価の割合が80%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
					1	1	教員アンケートで全学年が肯定的評価の割合が80%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		
					運動会	体育委員を中心に生徒主体で参加種目や担当係を決めさせる。話し合い、意見をまとめる中で「思いやる力」「行動力」を育んでいく。また、競技の練習や係の仕事では「思いやる力」、係の担当教員の指示を聞く「傾聴力」、それらを踏まえて時と場面によって自ら判断し行動する「行動力」を育んでいく。	4	4	教員アンケートで全学年で肯定的評価の割合が80%以上	4	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
							3	3	教員アンケートで2つの学年で肯定的評価の割合が80%以上	○	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
			2	2			教員アンケートで1つの学年のみが肯定的評価の割合が80%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
			1	1			教員アンケートで全学年が肯定的評価の割合が80%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		
			生徒会・係	中学校における委員会の運営や行事の運営において主体的に行動することで「行動力」を身につけ、仲間とともに課題解決に向かって考え、試行していき、「創造力」を育む。また、各執行部部長が学年の委員に会議の内容を伝達し協働することで「発信力」や「行動力」を育てていく。			4	4	教員アンケートで全学年で肯定的評価の割合が80%以上	4	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
							3	3	教員アンケートで2つの学年で肯定的評価の割合が80%以上	○	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
					2	2	教員アンケートで1つの学年のみが肯定的評価の割合が80%以上	2	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上		
					1	1	教員アンケートで全学年が肯定的評価の割合が80%未満	1	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満		

中期経営目標	短期経営目標	主な推進担当	具体的方策	年度末評価	評価指標・評価規準			
					努力指標	成果指標		
		フォーサイト手帳	行事や習い事の予定などを記入して「見える化」し、自主的に計画を立てる。日々の学習や生活を振り返り改善点を見つけ、翌日、翌週に活かすことで、「分析力」を育てる。また、うまくいったこと、嬉しかったことを書きこむこともあるため、「自己肯定力」を高める要素となる。毎日教員が目を通しコメントを書くため、文章作成の練習や大人との会話のやり取りにもなり、心の成長を促すツールとしている。	○	4	教員アンケートで全学年で肯定的評価の割合が80%以上	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
				○	3	教員アンケートで2つの学年で肯定的評価の割合が80%以上	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
				○	2	教員アンケートで1つの学年のみが肯定的評価の割合が80%以上	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上
				○	1	教員アンケートで全学年が肯定的評価の割合が80%未満	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満
		プログラミング	中学1年生はプログル技術、中学2・3年生はプログラ教材(マインクラフト)を使ってプログラミング的思考力を学んでいく。この時、「思考力」「分析力」を育てるとともに、生徒同士で教えあい課題を解決することで「思いやる力」「自己肯定力」も身につけていく。	○	4	教員アンケートで全学年で肯定的評価の割合が80%以上	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
				○	3	教員アンケートで2つの学年で肯定的評価の割合が80%以上	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
				○	2	教員アンケートで1つの学年のみが肯定的評価の割合が80%以上	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上
				○	1	教員アンケートで全学年が肯定的評価の割合が80%未満	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満
高校1年	他者を理解する力と社会への関心を育み、自己理解、自己表現する力を涵養する。また、目標とする進路実現のために必要な学力を養う。	探究活動を通じて論理的思考ができる能力の育成と、結果や考察を視覚的に表現することができる生徒を育てる。 ・教科学力の偏りを減らし、バランスよく基礎学力を身につけさせる。	与えられた課題をこなすことや、授業や補習に参加することで満足してしまうことなく、自らに課題を設定し、解決するための学習を意識させる。大学受験への準備段階として、応用可能な基礎学力を身につけさせる。	○	4	教員アンケートで肯定的評価の割合が90%以上	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
				○	3	教員アンケートで肯定的評価の割合が75%以上	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
				○	2	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%以上	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上
				○	1	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%未満	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満
高校2年	修学旅行や集団活動等を通して、集団における自己責任能力の育成と多角的思考力の向上を目指す。また、生徒自らが積極的に学習に取り組み、学習習慣・学習スタイルを確立させる。	異なる意見や考え方を尊重しながら、諸行事における中心的な役割を担う生徒を育てる。 ・「高3の0学期(高2の3学期)」を迎える中で、生徒各自の進路志望を明確化させるとともに、基礎学力の向上を目指す。	・学校行事やクラブ活動においても中心的な役割を果たすよう生徒自らが計画実行するような場面設定を行い、失敗を恐れず取り組む姿勢を身につけさせる。 ・常にコースごとに情報を共有しながら学年全体で取り組むことを念頭に学力面については、模試分析結果を活用しながら自らの目標に向かって取り組みそれぞれに合った学習方法を確立できるようサポートしていく。また、大学説明会やガイダンス等にも積極的に参加を進め、進路意識の向上を図るとともに、高い進路志望の形成を図る。	○	4	教員アンケートで肯定的評価の割合が90%以上	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
				○	3	教員アンケートで肯定的評価の割合が75%以上	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
				○	2	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%以上	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上
				○	1	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%未満	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満
高校3年	高校3年生として、学校の模範となれる生徒を育てる。新しい大学入試制度に対応できる力をつけ、生徒の進路目標が達成できるように力をつけさせる。	様々な学校行事を通して、段階的に協調性・団結力の向上を目指す。 ・進路に関する情報を生徒・保護者に的確に提供し、進路決定に向けた自己実現を図る。	・日々の学校生活を通して、変化する社会に適応可能な資質能力を育む。 ・生徒の個々の適性に合った進路実現のために、学年の情報を学校全体で共有し、生徒を支えていく。 ・模試を受験した生徒には、その振り返りを行うとともに、今後に活かすように促す。	○	4	教員アンケートで肯定的評価の割合が90%以上	4	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が90%以上
				○	3	教員アンケートで肯定的評価の割合が75%以上	3	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が75%以上
				○	2	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%以上	2	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%以上
				○	1	教員アンケートで肯定的評価の割合が60%未満	1	保護者ならびに生徒アンケートでともに肯定率が60%未満